



特集

グローバル供給体制の強化に向けて タイ新工場の建設をスタート。

近年、世界中でアルミニウムの需要が高まるなかで、古河スカイグループは供給責任を果たすべく、グローバルな規模で供給体制を強化。現在、その一環として、タイに新工場の建設を進めています。

グローバルな規模で拡大する アルミニウム需要に応えるために

アルミニウムは、軽くて丈夫なうえに加工性や耐食性、熱伝導性にも優れており、またリサイクルが容易であるなど、さまざまな強みを持っています。このため、従来から多様な分野で利用されており、近年においては地球温暖化などの環境問題や資源の有効利用に対する意識の高まりから、ますます需要が増加しています。例えば

自動車分野では、軽量化により省エネ・省資源に貢献する素材として、ラジエータやカーエアコンなどの熱交換器だけでなく、エンジンやボディ、フレームなどにも採用されており、需要は増え続けています。今後も増加し続ける需要に対応して、安定供給を維持することは、世界有数のアルミニウム圧延メーカーである当社グループの重要な責任です。こうした観点から近年アジアやヨーロッパ、北米など、世界各地に生産・販売の拠点を整備し、グローバル供給体制の強化に努めています。

国内アルミニウムメーカー初となる 板圧延の海外一貫生産工場を計画

2011年11月、当社はグローバルな供給体制を強化するため、タイにおける新工場の建設を発表しました。この新工場は、溶解から鋳造、圧延、仕上げまでの板圧延のすべての工程を行う、日本のアルミニウム圧延メーカーでは初めての海外一貫生産工場です。

新工場を建設するタイは、「東洋のデトロイト」と呼ばれるように、アルミニウム需要の旺盛な自動車産業関連メーカーが多数進出しています。さらに周辺には自動車産業と並ぶ需要先である飲料缶メーカーも多数あり、これらのお客様の需要に応えるには最適の立地です。また、建設予定地のラヨーン県アマタシティ工業団地は、タイ国最大の貨物取扱量を誇るレムチャバン港に近く、タイ国内への供給はもとより、東南アジアやインド、中国、中東諸国への輸出にも適しています。

持続可能な供給基盤づくりをめざし さまざまな施策を実施

自然災害リスクの低い立地を選択
「安定供給」というメーカーの責任を果たすためには、自然災害リスクの低い立地の選定が重要です。新工場建設予定地のラヨーン県アマタシティ工業団地は、



工場完成予想図

海抜約100メートルに位置し、河川とも離れていることから、洪水のリスクが少ない地域です。実際2011年の大洪水の際にも、同地域では浸水被害は皆無でした。また、地質調査や過去数十年にわたる地震・火山活動のデータを調査し、同地域が地震や火山活動によるリスクの低い地域であることを確認しています。

タイ洪水による当社グループへの影響について

古河スカイグループは、2010年2月にFurukawa-Sky Aluminum (Thailand) Co.,Ltd.を設立し、アユタヤ県ロジャーナ工業団地のコイルセンターを拠点に自動車用熱交材の加工販売を行ってまいりました。同コイルセンターは、2011年にタイで発生した大規模な洪水により甚大な浸水被害を受けました。人的被害はありませんでしたが、同工業団地での建屋・設備の復旧には長期間を要することや、タイ北部地域の洪水リスクが年々高まっていることなどから、同工業団地におけるコイル事業の継続を断念し、機械設備をラヨーン県アマタシティの新工場(建設中)に移設し、操業を再開することにしました。操業再開までの期間は、お客様のご理解を得て、古河スカイおよび古河スカイグループ会社による代替生産により供給責任を果たしてまいります。



グローバル供給体制の強化に向けて タイ新工場の建設をスタート。

環境影響を最小限に抑えるためのアセスメント

工場建設にあたっては、現地の社会や環境に与える影響への配慮が不可欠です。特に新工場は規模が大きく、周辺環境への影響を最小限に抑える対策が必要です。

そこで、当社は新工場の建設に先立ち、タイ国政府に登録されたコンサルタント会社と契約し、徹底した環境アセスメントを実施しました。この結果をもとに、タイの法律に即した環境影響評価報告書（以下、EIA報告書）を作成し、認可を得る予定です。

また2012年5月と7月の2度にわたり公聴会を開催し、県や警察、学校関係者、地域住民など、さまざまなステークホルダーの方々に、当社事業についての説明や

質疑応答を行いました。公聴会では、地域環境や安全衛生への配慮、地域貢献などについて、さまざまなご質問、ご意見をいただきました。公聴会の結果は、EIA報告書に反映させるのはもちろん、今後の工場運営にも役立てていきます。



公聴会の様子

現地社会とともに持続的な発展をめざして

タイ圧延工場プロジェクトチーム長 取締役製板事業部長 土屋 博範

新工場の建設にあたっては、メーカーとして供給責任を果たすことはもちろん、現地の地域社会と調和し、タイ経済の発展に貢献することも重要な社会的責任と考えています。

このため、現地政府はもちろん、工場周辺の地域社会の皆様のご理解、ご協力を得られるよう、公聴会の開催など、積極的にステークホルダーの皆様とコミュニケーションをとるよう努めています。



従業員用マニュアル（英語版）

また、環境への配慮をはじめ、人権、労働慣行、コンプライアンス、品質、地域貢献などのさまざまなCSRの課題に取り組んでいます。例えば、現地スタッフを日本の工場に招いて、品質チェックや安全確保などの研修を行う予定です。さらに、現地における指導や小集団による自主改善活動を通して、技術の習得や自主性の向上を図っていきます。こうした教育により、日本と同等の品質や安全性の確保と、今後、現地産業の担い手となる人材の育成に努めます。私たちの願いは、タイ経済の発展に寄与し、現地社会とともに持続的な成長を実現することであり、今後もそのための取り組みを着実に実施してまいります。